資料２

第10期柏市高齢者いきいきプラン21

「第1部　計画の考え方」の修正について

【原案】（8/13 開催）第２回専門分科会時のもの（該当ページ P49）

現状・課題分析からの施策の方向性

第9期計画における4つの基本方針「健康・いきがい」「つながり・支えあい」「くらし・安心」「医療・介護」の視点をもって現状・課題分析を行いました。また、高齢者やその家族が抱える課題が複雑化・多様化している状況において、必要なサービスや支援につながるための相談体制の充実は基盤となるものであり、相談内容や支援ニーズの変化を的確に把握し、地域課題や支援体制の課題を明らかにすることは、今後の施策の方向性を検討する上で重要であるため、基本方針「くらし・安心」の中から「相談・支援」を取り出し、現状と課題の分析を行うこととしました。

■健康・いきがい

現　状

- 本市の高齢者の健康状態は、他市と比較して総じて良好な状況にあります。フレイルあり割合（基本チェックリスト８項目以上）は16.3%で同規模保険者の18.3%を下回っており、特に75～79歳では12.6%（同16.0%）、80～84歳では20.0%（同23.0%）と低い状況にあります。
- 本市の高齢者の健康管理意識も比較的高い状況にあり、健康づくりや介護予防のために取り組んでいることとして、「食事や栄養に気をつけている」が70.0%から72.3%に、「健康診査を定期的に受けている」が58.8%から64.6%になるなど、前回調査からほとんどの項目において増加傾向を示しており、健康管理意識が向上しています。
- 一方、いきがいづくりのひとつである就労について、同規模保険者と比較すると「就労していない者の割合」がやや高く、70-74歳では60.7%（同58.4%）、75-79歳では72.8%（同70.8%）と高い状況にあります。

• ご意見をいただいた箇所
• ご意見を踏まえた修正等に係る解説資料は次ページ

課　題

- 本市では、多くの健康指標や社会参加指標において同規模保険者を上回る状況がみられるものの、高齢化の進展に伴いフレイル、認知機能低下、転倒、うつ等の要介護リスクは大幅に上昇しています。特に85歳以上ではフレイルあり割合が34.0%、認知機能低下者割合が44.8%、うつ割合が40.1%となっており、健康寿命の延伸に向けた継続的な介護予防の推進が必要となっています。
- 趣味活動やスポーツ活動への参加は比較的活発である一方、ボランティア活動参加者は13.5%、特技や経験を地域で活かす活動参加者は6.5%にとどまっています。さらに、就労していない者の割合は68.2%と高く、就労や地域活動を希望する高齢者が能力や経験を発揮できる環境づくりが求められます。

だれもが健康でいきいきと暮らせる地域づくり

施策の方向性

✓ 現状の健康づくり・フレイル予防・介護予防の取り組みについて、一定の効果が確認できていることから、現状の取り組みを維持しつつ、特に後期高齢者に対する取り組みを強化していきます。

✓ 身近な地域における通いの場や介護予防活動の充実、健康に関する情報提供や相談支援の強化により、早期発見・早期対応につながる仕組みづくりを進めます。

✓ 趣味活動やスポーツ活動に加え、就労、ボランティア活動、地域貢献活動など、高齢者が知識や経験を活かして活躍できる多様な機会を創出するとともに、「支えられる側」だけでなく「支える側」としても活躍できる地域づくりを推進します。こうした取り組みを通じて、生きがいと活躍できる機会の創出を図り、心と身体の健康づくりを目指します。

【解説資料】
ご意見を踏まえた修正の考え方等について

専門分科会におけるご意見（令和８年度 第２回 ※8/13 開催）

- 高齢者の就労観は多様であり，「就労＝いきがい」と一概に結びつけるのではなく，より柔軟な視点が求められるのではないか。
- 就労が持つ「社会とのつながり」の側面を踏まえ，「つながり・支えあい」の視点も考慮すべきではないか。
- 最低賃金上昇や身体的負担，接遇面での適性等から，介護現場におけるシニア雇用のハードルは高いのではないか。

事務局としての対応の考え方

- いきがい創出に対応する事業として，「Re:スタート 55+」を本計画に位置付ける中で，本事業が，シニア層のそれぞれの希望に応じて能力を発揮し，社会的役割を持ち続けることで自己実現や健康寿命の延伸（フレイル予防）に寄与することを目的として支援するものであることから，計画体系上の位置づけは基本方針Ⅰの「健康・いきがい」の原案を維持したいと考えます。
- その上で，「就労＝いきがい」と一概に結びつけるような表現を改め，就労を「活躍の場の選択肢の一つ」として再整理いたします。介護分野に限らず，多様な働き方や地域活動を通じた「いきがい創出」に加え，これらの活動機会の提供が，結果として「地域でのつながり」や「互いに支えあう」効果などへと還元される文脈となるよう見直します。
- なお，高齢者の介護現場での雇用ハードルに対しては，「Re:スタート 55+」による業務の切り出し（タスクシフト）支援等を推進し，専門職等の負担軽減を図るとともに、シニア層が現場を支えるースタッフとして無理なく活躍し、社会的役割や生きがいを得られる環境づくりを進めます

現 状

修正後の表現

また、65-69 歳の約６割（59.9%）、70-74 歳の約４割（39.3%）が就労しているほか、スポーツ等のグループ活動（32.3%［同 26.4%］）やボランティア活動（13.5%［同 12.1%］）の参加割合は同規模保険者を上回っており、多様な社会参加を通じた主体的ないきがいづくりの姿がうかがえます。

修正の考え方

就労率の低さをネガティブに捉えるのではなく，約４割のシニアが就労・活躍している実態に着目。さらに，同規模保険者を上回るスポーツやボランティア等の参加データを併記することで，就労を「いきがいの一側面」として位置づけ，「いきがい」の形を本人の意向に応じた「多様な社会参加」として改めます。

- 一方、いきがいづくりのひとつである就労について，同規模保険者と比較すると「就労していない者の割合」がやや高く、70-74歳では60.7%（同58.4%）、75-79歳では72.8%（同70.8%）と高い状況にあります。

課 題

修正後の表現

高齢者の心身の状況や生活スタイル・希望は多様であり、特定の活動を一律に求めるのではなく、グループ活動やボランティア、就労など誰もが自分らしい生き方を選択できる環境づくりが求められるとともに、こうした関わりを通じ、地域で互いにつながり・支えあっていける環境を育むことも大切です。

修正の考え方

「不就労率等が高い」というネガティブな記述を改め，多様化する本人の希望に応じた選択肢（Re:スタート 55+等）を整える必要性と，自発的な参加が地域でのつながり・支えあいに寄与する視点を再整理。

- 趣味活動やスポーツ活動への参加は比較的活発である一方、ボランティア活動参加者は13.5%、特技や経験を地域で活かす活動参加者は6.5%にとどまっています。さらに、就労していない者の割合は68.2%と高く、就労や地域活動を希望する高齢者が能力や経験を発揮**できる**環境づくりが求められます。

施策の方向性

修正後の表現

身近な活動から就労に至るまで、本人の希望やライフスタイルに応じた多様な生活の機会を創出します。誰もが無理なく自分に合った生き方を選択できる環境を整え、自発的な活動を通じた、健康・いきがいづくりを推進するとともに、地域におけるつながりや支えあいの広がりへつなげていきます。

修正の考え方

「高齢者が知識や経験を活かして活躍（貢献圧）」という表現を見直し，個人の「健康・いきがいづくり」を主軸としつつ，多様な活動や就労の機会が，結果として「地域でのつながり・支えあい」へ波及する文脈となるよう見直します。

✓ 趣味活動やスポーツ活動に加え、就労、ボランティア活動、地域貢献活動など、高齢者が知識や経験を活かして活躍できる多様な機会を創出するとともに，「支えられる側」だけでなく「支える側」としても活躍できる地域づくりを推進します。こうした取り組みを通じて、生きがいと活躍できる機会の創出を図り、心と身体の健康づくりを目指します。

【修正案反映】解説資料のとおり修正した状態のもの

現状・課題分析からの施策の方向性

第9期計画における4つの基本方針「健康・いきがい」「つながり・支えあい」「くらし・安心」「医療・介護」の視点をもって現状・課題分析を行いました。また、高齢者やその家族が抱える課題が複雑化・多様化している状況において、必要なサービスや支援につながるための相談体制の充実は基盤となるものであり、相談内容や支援ニーズの変化を的確に把握し、地域課題や支援体制の課題を明らかにすることは、今後の施策の方向性を検討する上で重要であるため、基本方針「くらし・安心」の中から「相談・支援」を取り出し、現状と課題の分析を行うこととしました。

■健康・いきがい

現　状

- 本市の高齢者の健康状態は、他市と比較して総じて良好な状況にあります。フレイルあり割合（基本チェックリスト８項目以上）は16.3%で同規模保険者の18.3%を下回っており、特に75～79歳では12.6%（同16.0%）、80～84歳では20.0%（同23.0%）と低い状況にあります。
- 本市の高齢者の健康管理意識も比較的高い状況にあり、健康づくりや介護予防のために取り組んでいることとして、「食事や栄養に気をつけている」が70.0%から72.3%に、「健康診査を定期的に受けている」が58.8%から64.6%になるなど、前回調査からほとんどの項目において増加傾向を示しており、健康管理意識が向上しています。
- また、65-69歳の約6割（59.9%）、70-74歳の約4割（39.3%）が就労しているほか、スポーツ等のグループ活動（32.3%［同26.4%］）やボランティア活動（13.5%［同12.1%］）の参加割合は同規模保険者を上回っており、多様な社会参加を通じた主体的ないきがいづくりの姿がうかがえます。

課　題

- 本市では、多くの健康指標や社会参加指標において同規模保険者を上回る状況がみられるものの、高齢化の進展に伴いフレイル、認知機能低下、転倒、うつ等の要介護リスクは大幅に上昇しています。特に85歳以上ではフレイルあり割合が34.0%、認知機能低下者割合が44.8%、うつ割合が40.1%となっており、健康寿命の延伸に向けた継続的な介護予防の推進が必要となっています。
- 高齢者の心身の状況や生活スタイル・希望は多様であり、特定の活動を一律に求めるのではなく、グループ活動やボランティア、就労など誰もが自分らしい生き方を選択できる環境づくりが求められるとともに、こうした関わりを通じ、地域で互いにつながり・支えあっていける環境を育むことも大切です。

だれもが健康でいきいきと暮らせる地域づくり

施策の方向性

- ✓ 現状の健康づくり・フレイル予防・介護予防の取り組みについて、一定の効果が確認できていることから、現状の取り組みを維持しつつ、特に後期高齢者に対する取り組みを強化していきます。
- ✓ 身近な地域における通いの場や介護予防活動の充実、健康に関する情報提供や相談支援の強化により、早期発見・早期対応につながる仕組みづくりを進めます。
- ✓ 身近な活動から就労に至るまで、本人の希望やライフスタイルに応じた多様な生活の機会を創出します。誰もが無理なく自分に合った生き方を選択できる環境を整え、自発的な活動を通じた、健康・いきがいづくりを推進するとともに、地域におけるつながりや支えあいの広がりへつなげていきます。

【解説資料（計画の全体像）】ご意見等を踏まえた所要の修正等について

計画の全体像（案）

計画策定の背景・動向	現状・課題	基本方針	基本施策	地域包括ケアシステム	目指す成果	目指す姿
社会背景 • 医療と介護ニーズを抱える85歳以上人口の増加 • 認知症高齢者の増加 • 独居高齢者世帯、高齢者のみ世帯の増加にともなう高齢者の世帯構成の変化	健康・生きがい • 健康への関心に差があり、健康づくりやフレイル予防・介護予防に取り組めていない高齢者がいる • 就労などで活躍したいという意欲のある高齢者が、活躍の場を見いだせる環境づくりが必要 • 行政の支援が見えにくい屋への予防的なアプ	基本方針１ だれもが健康でいきいきと暮らす地域づくり	1．地域を核とした心身の健康づくりの促進 2．フレイル予防・介護予防の推進 3．いきがいづくりの推進 4．就労など活躍できる環境の構築	介護予防 自　助 互　助	心身ともに健康で生活している高齢者が増える	すべての高齢者が　その人らしく　住み慣れた地域で　共に　安心して　いきいきと暮らすまち　柏
	支え合い …孤立を感じ …が高齢者と …援体制の 維持が困難となっている • 地域の支えあいの担い手となる意欲がある人が、支えあいに取り組めるようになる環境づくりが必要	基本方針２ だれもがつながりあい共に支えあう地域づくり	1．高齢者の社会参加の促進 2．地域での支えあいに向けた学びの場と活動の促進 3．地域の支えあいを担う人材の掘り起こしと育成・活躍支援 4．多様な主体との包括的連携体制の構築と活動支援	生活支援 自　助 互　助	地域での支えあいを行う高齢者と団体が増える	
国の動向 • 2040年を見据えた長期的視点の重視 • 介護保険制度の持続可能性の確保 • 地域包括ケアシステムの深化		基本方針３ だれもが暮らしの問題を相談でき解決できる仕組みづくり	1．困りごとを丸ごと相談できる体制の充実 2．切れ目のない相談支援体制の充実 3．生活支援体制の充実 4．認知症施策の推進	生活支援 互　助 共　助	支援体制の充実により困りごとが解決できる高齢者や家族が増える	
柏市の上位計画	高齢者向けの予防や対策が必要	基本方針４	1．防災対策の習慣化とそれに応える支援体制の充実 2．多様な住まいの確保と移動環境・住環境の整備 3．防犯対策の習慣化と地域安全活動の充実 4．権利擁護の推進と将来にわたる安心を支える仕組みの充実	生活支援 住まい 自　助 共　助 公　助	自らの備えと地域の支えあいにより，日常からいざという時まで安心して暮らす高齢者や家族が増える	
現状分析			1．介護サービス基盤整備 2．介護人材の確保と職場環境の改善 3．介護保険制度の適正な運用 4．在宅医療・介護連携の推進	介護 医療 共　助 公　助	介護が必要になっても、介護・医療を利用しながら望む暮らしを続けている高齢者が増える	

再編について

第２回分科会におけるご意見（「就労＝いきがい」という断定の解消，多様な社会との関わり方や働き方の捉え直し）及び本計画に位置付ける事業に係る関係各課等との協議・精査を踏まえ，「計画の全体像」について，基本方針１及び基本方針２について，「４施策→３施策」へ再編いたします。

見直しの内容

- 基本施策４「就労など活躍できる環境の構築」を，基本施策３「いきがいづくりの推進」へ統合し，新基本施策３「いきがいづくりと多様な活躍を支える環境づくり」として再編します。
- 「現状・課題」の関連する記述部分について，「趣味やボランティア、柔軟な働き方など、本人の希望に応じた多様な活躍の場を見い出せる環境づくりが必要」へと表現を改めます。

再編の考え方

第２回分科会におけるご意見（「就労＝いきがい」という断定の解消，多様な社会との関わり方や働き方の捉え直し）を踏まえ，趣味・交流などと，就労・ボランティア等の活躍できる環境整備を分断せず，「多様な選択肢の中で自分らしく活躍し，いきがいと健康づくりに繋げる」という一つの施策概念へ包括・集約いたしました。

見直しの内容

基本施策２「地域での支えあいに向けた学びの場と活動の促進」を，基本施策３「地域の支えあいを担う人材の掘り起こしと育成・活動支援」へ集約・統合します。

※名称は現行の基本施策３の「地域の支えあいを担う人材の掘り起こしと育成・活動支援」を踏襲
※基本施策４「多様な主体との包括連携体制の構築と活動支援」は基本施策３へ繰り上げ。

再編の考え方

- 「地域の課題や支えあいについて学び理解を深める（現行の基本施策２）」ことと，「地域の担い手として活動・活躍する」ことは，市民の意識変化と実践に向けた連続した一連のプロセスです。
- 「学び」と「実践」を別の施策として分断してしまうと，講座や研修で得た学びがどのように実際の活動に繋がるのかという導線が見えにくくなる懸念を解消するため，基本施策２では，「学びの場そのものを，人材の発掘・育成・実践に向けたプロセスとして位置づけ」，学びから活躍・定着までを一貫して支援する体系へ再整理します。

【修正案）反映（計画の全体像）】解説資料のとおり修正した状態のもの

計画の全体像（案）

計画策定の背景・動向

社会背景

- 医療と介護ニーズを抱える85歳以上人口の増加
- 認知症高齢者の増加
- 独居高齢者世帯、高齢者のみ世帯の増加にともなう高齢者の世帯構成の変化
- 生産年齢人口の継続的減少
- 介護人材不足の深刻化
- 社会保障関係費の増大と財政制約

国の動向

- 2040年を見据えた長期的視点の重視
- 介護保険制度の持続可能性の確保
- 地域包括ケアシステムの深化
- 介護予防・重度化防止の強化
- 認知症施策の推進・地域共生社会の実現
- 介護人材の確保と介護現場の生産性向上
- 介護情報基盤の整備

柏市の上位計画

- 健康寿命の延伸
- 地域共生社会の実現
- （重層的支援体制の構築）
- 多様な担い手による地域づくり
- 地域包括ケアシステムの推進

現状分析

- 地域分析
- 他自治体との比較
- アンケート調査
- 事業の推進管理

現状・課題

健康・生きがい

- 健康への関心に差があり、健康づくりやフレイル予防・介護予防に取り組めていない高齢者がいる
- 趣味やボランティア、柔軟な働き方など、本人の希望に応じた多様な活躍の場を見い出せる環境づくりが必要
- 行政の支援が届きにくい層への予防的なアプローチが不足している

つながり・支え合い

- 地域住民同士のつながりが弱まり、孤立を感じている高齢者がいる
- 地域の支えあいを担う人材の多くが高齢者となっており、従来の仕組みだけでは支援体制の維持が困難となっている
- 地域の支えあいの担い手となる意欲がある人が、支えあいに取り組めるようになる環境づくりが必要

相談・支援

- 困りごとがあってもどこに相談したらよいかわからない高齢者や家族がいる
- 生活における困りごとを解決するための支援の連動性が不十分
- 認知症になっても安心して地域で暮らし続けるために、認知症に対する正しい理解を普及・啓発することが必要

くらし・安心

- 災害に対する不安を低減するため、さらなる高齢者向けの予防や対策が必要
- 依然として特殊詐欺の被害に遭う高齢者が多い
- 高齢者のライフスタイルに合わせた住宅の確保・住環境の整備が必要

医療・介護

- 介護サービスが地域で安定かつ適切に提供されることが必要
- 介護事業所により介護人材の不足感に差があり、常態的に不足している事業所がある
- 様々な取組を通じて、働きやすい介護の職場環境をつくることが必要
- 在宅医療・介護を利用して自宅で暮らし続けたい高齢者が増えている

基本方針

基本方針１
だれもが健康でいきいきと暮らす地域づくり

基本方針２
だれもがつながりあい共に支えあう地域づくり

基本方針３
だれもが暮らしの問題を相談でき解決できる仕組みづくり

基本方針４
だれもが安全・安心に暮らす地域づくり

基本方針５
だれもが望む暮らしを選択・継続できる介護・医療の環境づくり

基本施策

1. 地域を核とした心身の健康づくりの促進
2. フレイル予防・介護予防の推進
3. いきがいづくりと多様な活躍を支える環境づくり
1. 高齢者の社会参加の促進
2. 地域の支えあいを担う人材の掘り起こしと育成・活躍支援
3. 多様な主体との包括的連携体制の構築と活動支援
1. 困りごとを丸ごと相談できる体制の充実
2. 切れ目のない相談支援体制の充実
3. 生活支援体制の充実
4. 認知症施策の推進
1. 防災対策の習慣化とそれに応える支援体制の充実
2. 多様な住まいの確保と移動環境・住環境の整備
3. 防犯対策の習慣化と地域安全活動の充実
4. 権利擁護の推進と将来にわたる安心を支える仕組みの充実
1. 介護サービス基盤整備
2. 介護人材の確保と職場環境の改善
3. 介護保険制度の適正な運用
4. 在宅医療・介護連携の推進

地域包括ケアシステム

介護予防
自　助
互　助

生活支援
自　助
互　助

生活支援
互　助
共　助

生活支援
住まい
自　助
共　助
公　助

介　護
医　療
共　助
公　助

目指す成果

心身ともに健康で生活している高齢者が増える

地域での支えあいを行う高齢者と団体が増える

支援体制の充実により困りごとが解決できる高齢者や家族が増える

自らの備えと地域の支えあいにより，日常からいざという時まで安心して暮らす高齢者や家族が増える

介護が必要になっても、介護・医療を利用しながら望む暮らしを続けている高齢者が増える

目指す姿

すべての高齢者が　その人らしく　住み慣れた地域で　共に　安心して　いきいきと暮らすまち　柏